



陽光院本堂  
「鬼瓦」



## 住職、延暦寺へ行く

## 住職コラム

15

### 先

日、天台宗の総本山、比叡山延暦寺を訪れました。観光でという訳では無く、回峰行の体験をして参りました。

この回峰行、午前二時に起床し、約六時間をかけ比叡の山を駆け巡る天台宗の修行法です。

私は二泊三日の体験でしたが、本来は千日回峰行と言い、字の如く千日間休み無く続ける大変な行です。秋と冬は行わないので合計七年もの間、寺に籠もり続けます。行者は常に刀と縄を身につけて歩きます。これには理由があり、もし足を折ったり、病気になるい歩けなくなったら、自害をしなくては

ならないからです。

この修行では七百日目辺りに九日間、飲まず食わず、寝ることも許されずお堂に籠もる行があります。実際に行をされた方のお話によると四日目には自分の身体から死臭が漂い、七日立つと死のギリギリを彷徨う事になるようです。

延暦寺は世界遺産に登録されています。しかし、織田信長の焼き討ちにあいほとんどの堂宇がまだ四百年も経っていません。にもかかわらず、登録がされたのは平安時代からの超人的な修行が現代にも息づいているからとの事でした。本当に貴重な体験をさせて頂きました。

合掌

## 令和3年度護持会収支報告

令和3年 護持会収支計算書 自令和3年4月1日 至令和4年3月31日

### 収入の部

科目	決算額
①護持会収入	3,328,030
→護持会費	3,328,000
→雑収入	30
当期収入合計	3,328,030
前年度繰越金	3,316,176
収入の部合計	6,644,206

### 支出の部

科目	決算額
①護持会運営費	3,452,288
→清掃整備費	1,912,645
→地代家賃	720,000
→通信費	396,903
→宗費・仏教会費	411,300
→寺務費	11,400
当期支出合計	3,452,288
当期剰余金	-124,258
次年度繰越金	3,191,918
支出の部合計	6,644,206

檀信徒の皆様よりお預かり致しました「令和3年度護持会費収支報告」です。今年度も何卒お納め頂きますようお願い申し上げます。

## 棚経

自宅でのお盆供養



7月13日(水)  
～15日(金)  
ご自宅で懇ろな盆供養を行う棚経は、コロナ禍のため新盆宅を中心に伺い致します。新盆以外の方でご要望の方はご連絡下さい。

## 施食会

お盆の合同供養祭



法要の様子



法話者：宇野全智師

お盆の合同供養祭「施食会」  
7月10日(土) 13時……法話  
14時……法要  
今年度は本堂内の参列者上限数を決めて、新型コロナウィルス予防対策を施し行います。申込用紙またはホームページよりお申込み下さい。ユーチューブでの中継も致しますので、ご自宅でも法話を聞くことや御供養も可能です。

### その他お知らせ

●本堂でお葬式  
本堂でお葬式が可能です。パンフレットを送付致します。

●生前戒名授与式  
生前に戒名をお授けする式を営みます。詳細も送付致します。

●永代供養墓ハナミヅキの碑  
パンフレットを送付致します。

●一般墓地の分譲  
家族でつなぐ一般的なお墓の分譲もしております。パンフレット有り。

●位牌・仏壇供養  
位牌のお預かりや、開眼閉眼等を致します。

●塔婆のお焚き上げ  
古くなった塔婆をお焚き上げします。

●ブログ・facebook  
お寺の日常をお知らせしています。

●お寺おやつクラブ  
お供え物のお下がりを生活難の家庭に寄付する活動を継続中です。

## 坐禅会・お寺ヨガ



陽光院では月例行事として、坐禅会とお寺ヨガを開催しています。どなたでも一回だけでも参加可能ですので、どちらもお気軽に起こして下さい。日程はホームページや受付のチラシをご覧ください。

## お墓・葬儀の相談



お墓の跡継ぎご不在の際の相談や、葬儀の事前相談などが増えていきます。昔のように死を事前に考えることはタブーではありません。どんな些細な事でもご相談下さい。

## 客殿改修工事



4月より7月頃まで、客殿二階の内装改修工事を行っています。新型コロナウイルスの影響が治まり次第、法事等の控室でご利用頂けるよう鋭意準備して参ります。

## 本堂掃除の会



6月26日(日)  
9時半～12時  
心を清める本堂掃除の会を開催します。大人から子供までどなたでも予約不要で参加可能です。休憩時間にはかき氷をふるまいます。

## 初めてのお盆講座



7月3日(日)  
14時～15時半  
伝統的なお盆の風習を講義スタイルでお伝えする講座を開催致します。予約制です。電話やホームページからお申込み下さい。

仏の教えや禅語は悟りの境涯を伝えているもの。しかし、深遠な仏の道を求めなくとも、その言葉を自らの生活に引き寄せることで、大切なものに気付かされたり、豊かな人生を過ごすヒントにもつながります。



## 連載 仏教の話 第12話

# たきぎと灰

過去の過ちや後悔にいつまでもくよくよしたり、未来の不安に胃を痛める。人が生きるといふ事はそのような事の連続なのかもしれません。

しかし、誰しもが日々を安らかに生きて行けることを願います。では、どうしたらよいのでしょうか。禅では、過去や未来に捕らわれず、言うなれば「今」を生きていけばよいと説きます。

私が新米の修行僧であった、若かりし頃の話です。御笑覧下さい。

曹洞宗の修行は生活自体が修行と捉えるため、洗面から寝姿までいわば二十四時間全てに細かな作法があります。当然新米の修行僧は中々作法が身につかず先輩僧侶より叱られることが常となります。

しかし、作法はあまりに多く複雑なものもあり、大抵の人は慣れるまでに大きな失敗を犯します。私も多分に漏れず失敗を犯し、先輩僧侶より巨大な雷が落ちる事がありました。当時の私はその失敗と叱責を引きずり、これからは叱られないようにという不安を持つようになってしまいました。すると、やることなすことが上手いかなくなり、更に他の先輩からも叱られるという悪循環に陥っていました。

すると不思議なものです。過去や未来が気にならなければ、今を丁寧に生きるようになります。後悔や不安は無くなりはじめ、日々の修行にも充足感を感じるようになっていきました。

過去の過ちや後悔にいつまでもくよくよしたり、未来の不安に胃を痛める。そんな時は、過去や未来を思い切って忘れ、今日の前の事を丁寧に努めれば、自然と過去は輝き、未来は美しくなるものなのだと思っっています。

「過去は今ではない。未来も今ではない。過去に捕らわれてくよくよばかりするな。まだ来ない未来を見て不安になったりするな。たきぎはたきぎ。灰は灰の今しかないんだ」

これを先輩から聞いた時、なんだか晴れやかな気持ちになったことを覚えています。

私の前には過ぎた過去や先の未来はなく、「今」しか存在はしない。起こした過去の後悔を受け入れ、未来の不安もなんとか頭から振り払い、目の前に与えられた今の修行を一生懸命に努めていこうと思っようようになりました。

きました。

そんな様子を察してでしょうかとある先輩が次の言葉をかけくれました。

「たき木が燃えると灰になる。灰から薪にはならない。

だからと言って灰を見て、この前はたき木だった。

たき木を見てこの後は灰になると思っっはいけない」

それは永平寺をお開きになられた道元禅師の著作「正法眼蔵」に書かれたお言葉を分かりやすく述べたものでした。もっと端的に言うならば、以下ようになります。





結婚式は親がだすもの  
お葬式は子供がだすもの

お寺にまつわる人のインタビューを通して、お寺との関わりとその見地を聞く連載「お寺と人」。

連載 第3話 お寺と人

はまそうぐてん  
有限会社ハマ葬具店（葬祭業）

# 保科健一

ほしな けんいち

1級葬祭ディレクター・葬祭ディレクター技能審査官



■有限会社ハマ葬具店  
本社：神奈川県横浜市保土ヶ谷区峰岡町 2-115  
浅間町営業所：横浜市西区浅間町 2-99-5  
電話：045-332-2872 メール：info@hamasougu.jp  
WEB：http://hamasougu.jp/

設立昭和43年。親子三代で続く地域密着型の葬儀社。  
あつてはならない葬儀・なくてはならない町の葬儀屋さんがモットー。

## 第

三話となるお寺と人は、横浜市保土ヶ谷区の葬儀会社「ハマ葬具店」の三代目跡取りの保科健一さんにお話を伺いました。

### ◆葬儀社に入ったきっかけ

「私が生まれ育った家は小さな葬儀社でした。家族みんなが日々忙しく、家族揃って旅行に行く事もありませんでした。私が手伝うことで少しでも皆が楽になればなど、跡を継ぐというよりもお手伝いの感覚でこの仕事を始めました」

### ◆日々の業務内容

「24時間365日昼夜を問わず、皆様のもしもの時に病院やご自宅に伺います。そこでは深い悲しみの中にあるご遺族のご希望をお伺いし、その後の日程調整・見積等を行い、式進行などの段取

りをしていきます。そして通夜葬儀はもちろんのこと、その後の新盆や法事のお手伝い、よろず相談などもさせて頂いています。私は葬儀が終わったからそれで終わりでは無く、永いお付き合いの始まりと考えています」

### ◆葬儀とは

「私の結婚式の際は、妻と二人で相談し、少人数の式を静かに挙げようと考えていました。しかし、父より『結婚式は親が出すもの。葬式は子供が出すもの』と言われ、思うようにはなりませんでしたが、儀式を執り行い、自分たちの力だけでは集められないほどの多くの親類や会社関係の方々、息子の成長を一目見ようと参列して下さい、そこには感謝しかあり

ませんでした。葬儀も、亡き方を縁として、知らせを受けた多くの方が参列しその死を悼み、慰め、声を掛け、寄り添い儀礼を行うことで、深い悲しみを癒し、また命の尊さなども教えてくれる大事な儀式だと感じています」

### ◆葬儀の現状について

「近年、インターネット等の情報、価格重視の広告の広がりにより、亡き方を片付けるためだけの儀式になってきているのではと危惧しています。今は誰かに相談して教わって行うという人と人との関わりが薄れていると感じます。ネットに書いてある事が全てとなり、葬送文化が壊されていくのではと憂慮しています。また、家族葬＝葬儀を安く出来るだろうと考える人が

### ◆仕事をしていた良かったこと・嫌なこと

「良かったことは顔と顔を合せての仕事であり、百人百色、家庭環境や宗教が違うため教わる事が多くマナーが無いこと。知識や人脈が増えること」

### ◆嫌なことは大切な人の死に向き合わなければならぬこと。葬儀に対する本音を遺族より聞き出せなかったこと。悲しみの遺族に対して理解が無い人と出会う

「嫌なことは大切な人の死に向き合わなければならぬこと。葬儀に対する本音を遺族より聞き出せなかったこと。悲しみの遺族に対して理解が無い人と出会う

こと。お葬式を価格や手間判断する人がいること。また、葬儀業界には「待った」と「予約」がありません。盆暮・正月や深夜早朝、家族の記念日にも業務に向かいますので予定が立てられないという事もあります」

### ◆陽光院檀信徒に向けて

「葬儀を事前に考えることは昔のようにタブーではありません。分からない事を分らないままにせず、ぜひ仏事にまつわるご不安をお聞かせ下さい。皆様の？が私たち葬祭業者のヒントや手助けの基礎になります。また、毎年7月10日の陽光院様の施食会のお手伝いをさせて頂いております。顔を見て、あっ！この人！とお声掛け頂き、気さくにお話させて頂ければ幸いです」